

いつ、どこで起こるか
わからない自然災害。
そのときあなたは
どうしますか？



「平成21年7月中国・九州北部豪雨」福智町被災状況

発生日時：平成21年7月24～26日
総雨量：497.5^{mm} (本庁観測)
人的被害：死者1人 負傷者1人
建物被害：42棟
道路被害：28か所
河川被害：3か所
土砂災害：70か所

もしも災害が起こったら…

7月24日から26日にかけて、九州北部地方を襲った豪雨は県内全域に甚大な被害をもたらしました。町内では、24日夜に災害対策本部が設置され、警察署、消防署、消防団、役場などが懸命の作業に当たりました。しかし、豪雨は至る所に大きな爪痕を残し、自然の驚異をまざまざと見せつけました。今月は、これからの台風シーズンに向けて災害から身を守るにはどうしたらいいかを考えてみましょう。

必要度は7対2対1の割合！

災害時にあなたが頼るのは誰ですか。助けてくれるのは誰ですか。災害の規模が大きくなればなるほど、行政の対応力は小さくなります。台風災害時には、役場や消防署などの公的機関に「家が浸かりそうなので、土のうを持ってきてほしい」という要望が多く寄せられます。しかし、その頃には、河川のはらんやため池の決壊などの恐れがあり、応急処置を講じなければ被害が甚大になると思われる場所に役場職員や消防団員は人命救助を優先して出勤。そこで土のう作りや土のう積みは追われ、対応できる人員はほぼ残っていないのが実情です。また、救援のための資材を届けようとして、浸水のため被害現場までたどり着けなかったというケースもあります。

次の表は、阪神・淡路大震災時に生き埋めや閉じ込められた人の救助を誰が行ったかを表したものです。

誰が助けたか		自助・公助・共助の別	
自力で	34.9%	自助	66.8%
家族に	31.9%	共助	30.7%
友人・隣人に	28.1%	公助	1.7%
通行人に	2.6%		
救助隊に	1.7%		
その他	0.9%		

「自力で」「家族に」などの自助による救助は約67%、「友人・隣人に」などの共助が約30%、救急や自衛隊などによる公助は2%

との連携が効果的です。こうした連携が、地域、そして自分の被害を最小限に抑え、早期に復旧・復興するために必要なことです。

共助とは

自分たちの住んでいる地域は自分たちで守るということです。そして、地域を守るということは自分を守ると言うことです。消防や警察、役場などの地域の防災機関も同時にすべての現場に向かうことはできません。かといって、自衛隊などの外からの応援の到着には時間がかかります。そんなときに頼りになるのが顔見知りの隣近所の人です。

自分たちの住んでいる地域は自分たちで守るということです。そして、地域を守るということは自分を守ると言うことです。消防や警察、役場などの地域の防災機関も同時にすべての現場に向かうことはできません。かといって、自衛隊などの外からの応援の到着には時間がかかります。そんなときに頼りになるのが顔見知りの隣近所の人です。

公助とは

地方公共団体（消防、警察含む）、消防団、自衛隊などです。各機関とも、災害の発生からできるだけ早く、すべての能力を応急対策活動にあてられるよう、備えています。

自助とは

自らの身は自分で守るということです。普段から災害に関する知識を身につけ、災害を正しく理解し、何を備えておけばよいかを考え、災害に対する準備をしておいてください。災害からあなたと家族の身を守れるのはあなた自身です。

自助・共助・公助の連携

震災の直後、自分を守るのは、自助の力です。自分ひとりでは対応できない状況になったとき、頼ることができるのは、共助です。それは同時に、自分が可能ならば共助に参加する意識が前提となります。公助が活動を始めても、その援助の手が、円滑に私たち一人ひとりの許に届くためには、共助

風水害から身を守るには「把握する」「避難する」「声をかける」

過去10年間(平成10年～19年)の自然災害による全国での犠牲者をみると、風水害による犠牲者は692人と最も大きい数字になっています。特に平成16年には全国で死者が230人を数えるなど大きな被害となりました。こうした犠牲者をゼロにするにはどうしたらいいのでしょうか。

1 「把握する」

住んでいる地域のどこが危険で、いざという時にどう避難すればいいのか。防災ハザードマップなどを参考に日頃から危険箇所や避難経路を把握しておきましょう。



「防災ハザードマップ」については 総務課 庶務係 ☎ 22-0555

2 「避難する」

被害の中でも外出時の死亡事故が相当数にのぼっています。台風や大雨の際の外出は極力控えましょう。また、大雨警報や土砂災害情報などに注意し、避難勧告が出されたらすみやかに避難しましょう。

3 「声をかける」

防災無線も雨や風で聞き取れないことがあります。避難勧告に気づいていない人には声をかけるようにしましょう。ひとりでは逃げられない人の避難には地域の協力が必要です。日頃より防災について話し合い、助け合いながら、犠牲者ゼロをみんなで目指しましょう。

「大雨が降ってきたな」と思ったら携帯サイトで確認を！

遠賀川河川事務所 防災情報課 ☎ 0949-22-1830 月額基本料無料

- 国土交通省 川の防災情報 QRコード
全国の雨量と河川の状況がわかる。
<http://i.river.go.jp>
- 防災メール「まもるくん」 QRコード
登録すれば注意報・警報が自動で送信。
<http://www.bousaimobile.pref.fukuoka.lg.jp/>
- 福岡県の雨量・河川情報 QRコード
お住みの地域ごとに防災情報が探せる。
<http://www.mobile-doboku.prefu.fukuoka.lg.jp>